

195

内閣情報部六・二

情報第一號

重慶日本語放送（五月三十日）

（東京都市遞信局聴取）

一、……………一昨年^{七月}直溝橋事件發生以來
 既に滿二ヶ年になるのでありますが其の間日本の軍閥は常に即戦即決を主張して中國を侵略しよう企てたのであります、然るに皆様も御承知の通りに日本軍の主張してゐた即戦即決の作戦は中國軍の猛烈な抗戰に遭つて見事失敗して終つたのであります。
 日本軍部はその失敗を隠さんがために事變發生以來二ヶ年間に亘る戦果を稱して支那の損害は實に二百萬で日本軍の戦死者は僅かに五九、九九〇人に過ぎないなど、發表して居りますがこれは丸きり子供だましの虚構の宣傳でその内容は反駁の必要もない位滑稽極まるものであります。

日本國內の所謂「無言の凱旋者」だけでも到底六萬なんていふ少ない數字である筈がなし
 その外に中國の土さ化した行衛不明の將卒も無數に有るが日本軍部は之を計算に入れてゐない。彼等は青年、少年又は學生を狩つて戦場に送りそれで足りなくて臺灣、朝鮮あたりの數十萬の民衆を強制的に戦場に送つてゐる程困つてゐるのであります。

日本軍部は又察哈爾、綏遠、河北、山東、山西、江蘇及安徽の七省と海南島全部を完全に

占領し河南省は大部分を攻略したと發表して居りますが例へば最近察哈爾省及び河南省南部に於ける中國軍の攻勢は何を物語つてゐるものであるか、又日本軍は「濟南方面に於ける支那軍の敗殘兵を掃蕩中である」云々と云つてゐるが完全に占領せられた筈の山東省内に尙中國軍のある事は日本軍の占領地域内で中國軍が尙活躍してゐる事を立證してゐるものでこれでも日本軍は前に云つた陪省を完全に占領したと誇り得るのでありませうか。日本軍閥は彼等の宣傳してゐた「五月攻勢」の結果に就ては約束に反して口をつぐんで一切發表してゐない。之は湖北省方面に於ける日本軍大部隊の攻勢が中國軍の忠勇的奮戦によつて失敗したためであります。日本軍は五月の初め頃長期戦闘を準備して十數萬の兵を動かして機械化部隊を多量参加せしめて攻勢に移つたのであるが中國軍は猛然奮ひ起つて敵の中央突破を敢行しシヨウウヨク、カンジヨウを奪取し日本軍は莫大な損失を受けるに至りました、この激戦に於て内田師團は全滅し小島騎兵隊も殲滅的な打撃を受けたのであります。

斯の如く日本軍の五月攻勢は惨敗に終つたのであるが中國の戦線にある日本軍は三十二ヶ師團滿洲に六ヶ師團と推量されて居り日本内地に二ヶ師が残つてゐる丈である、本當ならば日本内地に於て増援部隊が準備せられるべきであるにも拘らず國內より多數の増援は困難で戦線に於ける損害の増加と共に日本軍の作戦は今後益々困難を加へ軍閥の即戦即決の

對事變方針も遂に實行不能の破目に陥つてゐるのであります。

尙日本軍閥の中國侵略を賄ふ戦費は尅大な額に達してゐて國民は悲惨な生活を續けながらこの戦費を據出せなければならぬ悲しむべき状態で一般の國防費の六億七千萬圓に過ぎないのに對して事變費は昨年度に於て實に三十七億を消費し去り本年度は六十億にも達するといふ尅大な戦費を要するのであります。其の爲に財政は窮乏のどん底に陥り經濟は混亂して物價は益々昂る一方であるが日本國民が果してこんな莫大な戦費を負擔し得るか如何かは甚だ疑はしいと思ひます。

外交方面では英米佛の列強と衝突して上海租界及鼓浪嶼事件は愈々解決困難であり又ソ聯とは滿蒙國境方面で衝突して事態が急を告げてゐるばかりでなく内面的には陸軍と海軍との間に非常な軋轢を生じてゐるのであります。右の有様で日本軍閥及びその傀儡政府の全面的没落は正に目前に迫つてゐるのであります。



内閣情報部六・二 情報第二號

重慶五月三十一日發ロイテル特電 (東京都市遞信局聽取)
外蒙事件と重慶狀況

(重慶電)

支那筋では所謂滿州國外蒙國境戰鬪事件の成行きを嚴重に注視して居るが、支那新聞紙はまた同事件を報道して居ない、之は現在迄入手した報道は日本筋から出たもののみであり、公平な他の筋から何も報ぜられず、モスコも今までの所全く沈黙を守りて日本の報道を否定もしなければ確認もせず、批判もして居ないからである。支那筋では、若しそんな事件が起つて居るごしたらモスコから又は公平な筋からの報道を得たいものだ。焦慮して居る。支那人筋は、若し外蒙國境に戦争が起つたとしても事件の重要性は日本によつて非常に誇張して報ぜられて居るものであり、又重大な發展性はないとの意見が多い。

日本が國境事件をかく誇大に報道する其の動機が奈邊にあるかは判らぬが、或る方面では日本は、英佛米に對して、ロシアは民主主義國家群にとつて軍事力の點からは大して價値のある國ではないとの印象を與へんとして居るのだとの意見を抱いて居る。又他の方面では日本は國內の關心を支那に於ける軍事行動の不振から外らせやうと試みて居るのだとし

196